

# 絵で世界は変わるのか？

今だから、  
見えるものが、きつとある。



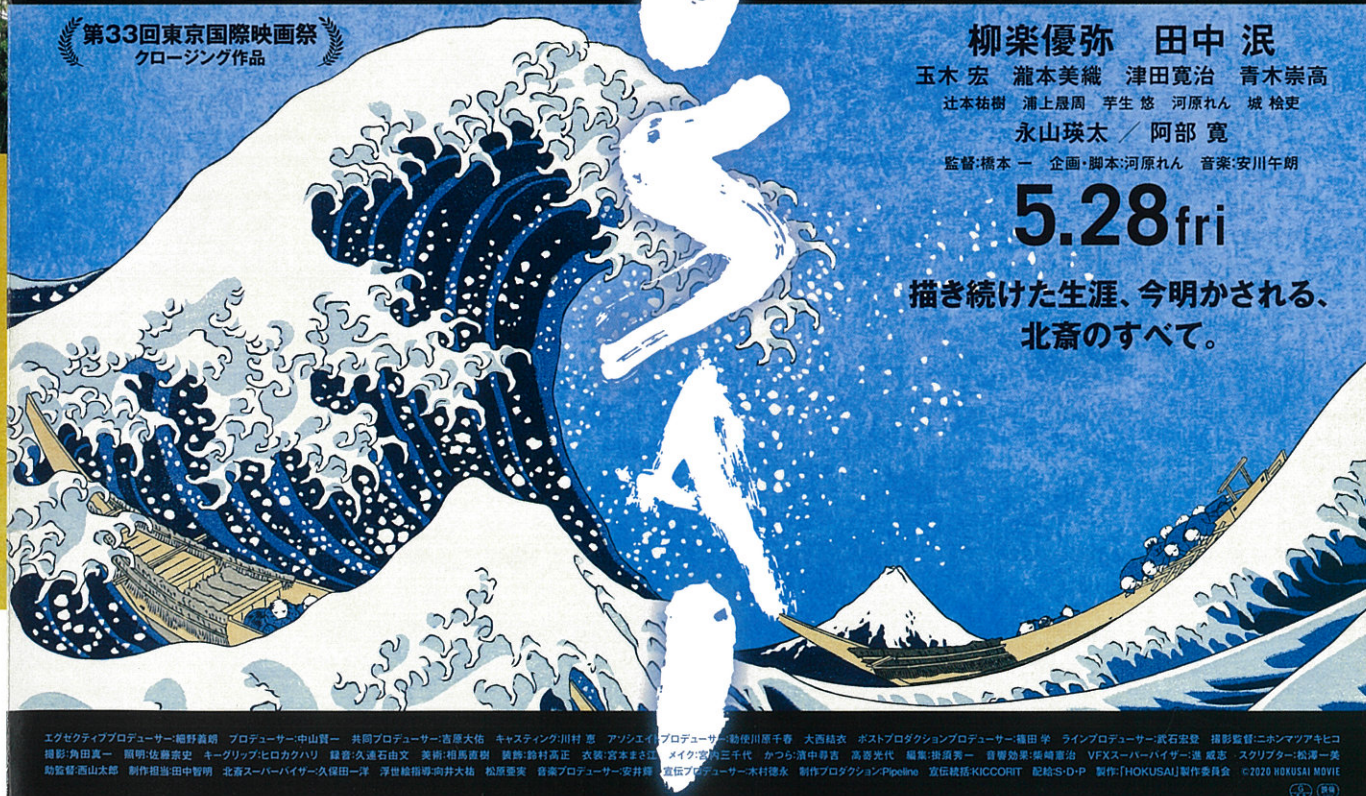
# 北斎

第33回東京国際映画祭  
クロージング作品

柳楽優弥 田中 湊  
 玉木 宏 瀧本美織 津田寛治 青木崇高  
 辻本祐樹 浦上晟周 芋生 悠 河原れん 城 隼史  
 永山瑛太 / 阿部 寛  
 監督:橋本 一 企画・脚本:河原れん 音楽:安川午朗

5.28fri

描き続けた生涯、今明かされる、  
北斎のすべて。



## 新千円札に浮世絵が！ 押さえておくべき北斎伝説

玄米生活のおかげ!?  
平均寿命40歳と言われた時代に  
90歳まで生きたご長寿!

60歳を過ぎて脳卒中で倒れるも、  
自力でなんとか治癒させる!

米LIFE誌「この1000年で最も  
偉大な功績を残した100人」に  
日本人唯一のランクイン!

あの有名な波の絵  
“富嶽三十六景 神奈川沖浪裏”は  
70歳を過ぎて描いた!

2024年度から発行される  
新紙幣の千円札に「浪裏」の絵が採用!

2022. 1/2(日) ~ 1/23(日)  
 休映日: 1/4(火)、10(月)、11(火)、17(月) 上映時間: 10:20 (1日1回のみ)  
 料金: 一般 1,600円 / 学生 (大学・専門学校)、高校生 1,200円 / 中学生以下 (3歳以上) 1,000円  
 シニア (60歳以上) 1,000円 / 障害者手帳をお持ちの方 (介護者2名まで) 1,000円  
※全席指定 各回定員入替制 立ち見不可 事前予約不可 ※ご鑑賞当日午前10:00より、その日の上映回について受付を開始いたします

恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館ホール  
 TEL: 03(3280)0999 www.topmuseum.jp 〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3  
 JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分

エグゼクティブプロデューサー: 船野嘉朗 プロデューサー: 中山賢一 共同プロデューサー: 吉原大佑 キャスティング: 川村 恵 アソシエイトプロデューサー: 勸徳川原千春 大西結衣 ホストプロダクションプロデューサー: 藤田 学 ラインプロデューサー: 武石宏登 撮影監督: ニホンマツアキヒロ  
 撮影: 角田真一 照明: 佐藤宗史 キーグラフィック: ヒロカクハリ 録音: 久遠石由文 美術: 相馬真樹 装飾: 鈴木高正 衣裳: 宮本まさこメイク: 西内三千代 から: 濱中尋喜 高橋光代 編集: 掛須秀一 音響効果: 奥崎重治 VFXスーパーバイザー: 遠 威志 スクリプター: 松澤一英  
 助監督: 西山太郎 制作担当: 田中智明 北斎スーパーバイザー: 久保田一洋 浮世絵指導: 向井大祐 松原聖実 音楽プロデューサー: 安井輝 宣伝プロデューサー: 木村徳永 制作プロダクション: Pipeline 宣伝統括: KICCORIT 配給: S-D-P 製作: [HOKUSAI] 製作委員会 ©2020 HOKUSAI MOVIE





孤高の絵師の生き様が、今初めて描かれる。



### 何のために、描き続けるのか？

時は江戸。幕府によって表現者たちが自由を奪われていた時代に、自分の道を貫き、ひたすら絵を描き続けた一人の絵師がいた。誰もが知る“あの波”を生み出した天才絵師、葛飾北斎である。ゴッホ、モネなど名だたる印象派アーティストたちを刺激し、今なお工芸、彫刻、音楽、建築、ファッション、デザインなどあらゆるジャンルで世界に影響を与え続ける北斎。しかし、若き日の北斎に関する資料はほとんど残されておらず、その人生は謎が多い。本作は、歴史的資料を徹底的に調べ、残された事実を繋ぎ合わせて生まれたオリジナル・ストーリー。今までほとんど語られる事なかった青年時代の北斎をも描いている。

演じるのは、「誰も知らない」でカンヌ国際映画祭の男優賞を史上最年少で受賞した柳楽優弥と、国際的なダンサーとしても知られる田中泯。W主演でそれぞれ若き日と老年期の北斎を体現する。北斎を見出す版元の蔦屋重三郎には阿部寛。晩年の北斎に最も影響を与える戯作者の柳亭種彦を永山瑛太。そして、北斎の一つ先を行く美人画の大家・喜多川歌麿を玉木宏が熱演。北斎の怒涛の人生に共鳴した豪華キャスト陣が集結した！

画狂人生の挫折と栄光。幼き日から90歳で命燃え尽きるまで、絵を描き続けた彼を突き動かしていたものとは？信念を貫き通したある絵師の人生が、170年の時を経て、今初めて描かれる。

九十年の生涯で描いた作品三万点以上。

### 何があっても絶対に諦めず、描き続けた、その先に—。

腕はいいが、食うことすらままならない生活を送っていた北斎に、ある日、人気浮世絵版元（プロデューサー）蔦屋重三郎が目を付ける。しかし絵を描くことの本質を捉えられていない北斎はなかなか重三郎から認められない。さらには歌麿や写楽などライバル達にも完璧に打ちのめされ、先を越されてしまう。“俺はなぜ絵を描いているんだ？何を描きたいんだ？”もがき苦しむ、生死の境まで行き着き、大自然の中で気づいた本当の自分らしさ。北斎は重三郎の後押しによって、遂に唯一無二の独創性を手にするのであった。

ある日、北斎は戯作者・柳亭種彦と運命的な出会いを果たす。武士でありながらご禁制の戯作を生み出し続ける種彦に共鳴し、二人は良きパートナーとなっていく。70歳を迎えたある日、北斎は脳卒中で倒れ、命は助かったものの肝心の右手に痺れが残る。それでも、北斎は立ち止まらず、旅に出て富嶽三十六景を描き上げるのだった。そんな北斎のもとに、種彦が幕府に処分されたという計報が入る。信念を貫き散った友のため、怒りに打ち震える北斎だったが、「こんな日だから、絵を描く」と筆をとり、その後も生涯、ひたすら絵を描き続ける。描き続けた人生の先に、北斎が見つけた本当に大切なものとは…？